

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 西尾市国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

この地域に在住し生活している外国人に、地域社会の中で周囲と摩擦することなく生活できるために必要な日本語を習得させ、かつ、日本人の考え方、風習などになじめるよう指導する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
09.6.18	奥谷・斉藤(由)・大谷 (事務局)森田・斉藤 (武)・山田・黒部	受託事業内容について	対象事業内容確認
09.7.16	奥谷・斉藤(由)・大谷 斉藤(美)・倉地 (事務局)森田・斉藤 (武)・山田・黒部	受託事業実施状況報告	受託授業開始後約1ヶ経過までの実施状況について中間報告
09.8.27	奥谷・斉藤(由)・斉藤 (美)・倉地 (事務局)森田・斉藤 (武)・山田・黒部	受託事業実施状況報告	受託授業開始後約2ヶ経過までの実施状況について中間報告
09.12.17	奥谷・斉藤(由)・大谷 斉藤(美) (事務局)斉藤(武)・ 山田・黒部	受託事業実施状況報告	・受託事業終了直前時点の実施状況について報告、承認

【写真】添付します。



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称:西尾市国際交流協会日本語教室「西尾にほんごひろば」
- ② 開催場所:西尾市総合福祉センター
- ③ 学習目標:
 - (入門コース)日常生活に必要な日本語の基礎(五十音、挨拶、物の名前など)の習得
 - (初級 A・B コース)日常生活で必要な日本語の習得
 - (初級 D(3級受験)コース)日常生活や職場で必要な日本語を正しく使えるレベルに到達すること(日本語能力試験3級レベル)
- ④ 使用した教材・リソース
 - (入門コース)教室にて作成した五十音、挨拶、物の名前などの初歩の学習資料
 - (初級 A・B コース)スリーエーネットワーク社「みんなの日本語初級Ⅰ」
 - (初級 D(3級受験)コース)UNICOM 社「日本語能力試験文法編3級」
- ⑤ 受講者の募集方法
 - 西尾市の広報に掲載し、西尾市内の各家庭に伝えて募集しました。
 - (実際に募集した広報を添付します。)
- ⑥ 受講者の総数(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
 - (入門コース)31名
 - (初級 A、B コース)2クラス合計67名
 - (初級 D(3級受験)コース)24名
- ⑦ 開催時間数(回数)
 - (入門コース)60時間(全24回)
 - (初級 A、B コース)各60時間(全24回)
 - (初級 D(3級受験)コース)57・5時間(全23回)
- ⑧ 日本語教室の具体的内容
 - 添付の表をご参照願います。

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)

添付、「委託事業実施内容報告書(第3項、⑨「特徴的な授業風景」資料)を参照願います。

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
イイダ ネウザ ヒロコ	ポルトガル語 (ブラジル)	16年	24回	(入門コース) 通訳・授業補助

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

(入門コース)日常生活に必要な日本語の基礎の習得のための授業を実施し、ほぼ半数の学習者が目標を達成した。

(初級 A、B コース)日常生活に必要な日本語の習得のために 教科書「みんなの日本語初級 I」により授業を実施し、大半の学習者が目標を達成した。

(初級 D(3級受験)コース)目標である日本語能力試験3級合格レベルの日本語能力を習得した。(達成状況については次項参照。)

② 学習者の習得状況

(入門コース)講座の修了時期に修了試験を実施し、受験者の約半数が修了試験に合格。

(初級 A、B コース)講座の修了時期に修了試験を実施し、受験者の約80%が修了試験に合格。

(初級(3級受験)D コース)講座学習者の大半が日本語能力試験を受験し、約80%が合格。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

(入門コース)日本語であいさつができない、ひらがなさえ読めない学習者が大勢いたが終了時には半数が修了試験に合格したほどであった。基本的なことばを理解することによって次第に明るい表情を見せるようになった。

(初級 A、B コース)「読む」、および「書く」という基礎ができ、漢字の音読み、訓読みにも慣れてきた。簡単な日記を書くことが出来、修了試験の合格率が高かった。

(初級 D(3級受験)コース)漢字を使った履歴書を書くことが出来る学習者も出てきた。前述のとおり、受講者の日本語能力試験合格率が約80%で、例年の全国平均の合格率に比べ、高かった。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

(入門コース、初級A、Bコース)

この事業を受託した当初は児童の参加があることを想定していなかったが、入門および初

級A・Bコースには親についてくる児童が数名いて、授業中に児童が時間を持て余したり、親が落ち着いて授業を受けにくいという問題があった。しかし、この地域の児童たちを対象とした学習支援教室があるという情報を入手し、児童をこの学習支援教室にて受け入れてもらうこととなった。同教室はボランティアが不足していたため、こちらに余力がある場合は応援するという体制にした。この連携は、大人の学習者にとっても教授者にとっても授業に集中することができ、また児童にとっても同年齢の子供たちと学習できるといったことで好ましいものとなった。また、ボランティア同士の連携も生まれた。

(初級D(3級受験)コース)

このコースは日本語能力試験合格を目標として、同試験3級レベルの日本語を教えているため、帰国して日本語を役立てる職に就きたい大中小の企業の研修生、技能実習生が多数受講した。なかには評判を聞いてかなりはなれた市町から参加してくる学習者もあり、市域を越えた広がりが見られた。

⑤ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する)

a、現状

文化庁の委託事業としての日本語教室終了後も、毎週日曜日に、「西尾にほんごひろば」として、引続き同様の体制での授業を実施する。

b、今後の課題

教室内の学習は基本であるが、例えば地域の日本人と親しむために方言を教えるとか、実際に買い物をして言葉を学習させるなど、生活していく上での生きた言葉を学習させることも必要であるとする。

c、今後の活動予定, 展望

「西尾にほんごひろば」をこれからも続けていくことにより、生活する上で支障をきたさないレベルにまでは学習させ、ごみの出し方や日本で暮らす上でのマナーなども教えていきたい。また、外国籍児童を学習支援教室にて受け入れてもらうと同時に、「西尾にほんごひろば」から同教室へ、ボランティアの応援を出すという形での連携を進めていく。

③その他参考資料

※写真は、肖像権等に配慮し、差し支えないものを添付すること。